

証券コード：2902



株主・投資家の皆様へ

第109期 中間報告書

2025年4月1日 ➥ 2025年9月30日

– Imagine,Desire and Create –

トップメッセージ

当社は、経営理念であります「世界の人々の健康と豊かな生活文化に貢献する」研究開発型企業として、これからもグローバルな展開を目指してまいります。

そのため、当社グループは、**基本理念「好奇心 そして行動（Imagine,Desire and Create）」**のもと、総力を結集し、新たな課題にも積極的にチャレンジしながら、進化を続けてまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

代表取締役社長

山崎 長宣

Q

2025年9月期を振り返り
事業概況についてお聞かせください。

A

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業の賃上げによる所得環境の改善が行われるなど、穏やかな景気回復基調の動きが見られましたが、東欧・中東地域における紛争の長期化、円安や物価高、不安定な国際情勢の影響により、依然として先行きが不透明な状況にあります。

当社事業の主要分野であります食品業界におきましては、健康需要の増加により堅調に推移しましたが、継続的な物価上昇による個人消費の低迷など、企業を取り巻く事業環境は厳しい状況が続いております。

このような環境の中で当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）は、引き続き対処すべき課題として、以下を掲げ、企業価値の向上に取り組んでおります。

- ①市場変化への対応
- ②販売の強化（グローバル化）
- ③品質管理体制の維持・強化
- ④環境への取り組み
- ⑤人材育成
- ⑥業務改善による全体最適化

Q

2025年9月期の業績についてお聞かせください。

A

当中間連結会計期間の売上高は、260億23百万円（前年同期比4.2%増）となりました。

営業利益は、36億8百万円（前年同期比21.7%増）となりました。

経常利益は、38億76百万円（前年同期比27.5%増）となりました。

親会社株主に帰属する中間純利益は、23億91百万円（前年同期比6.2%増）となりました。

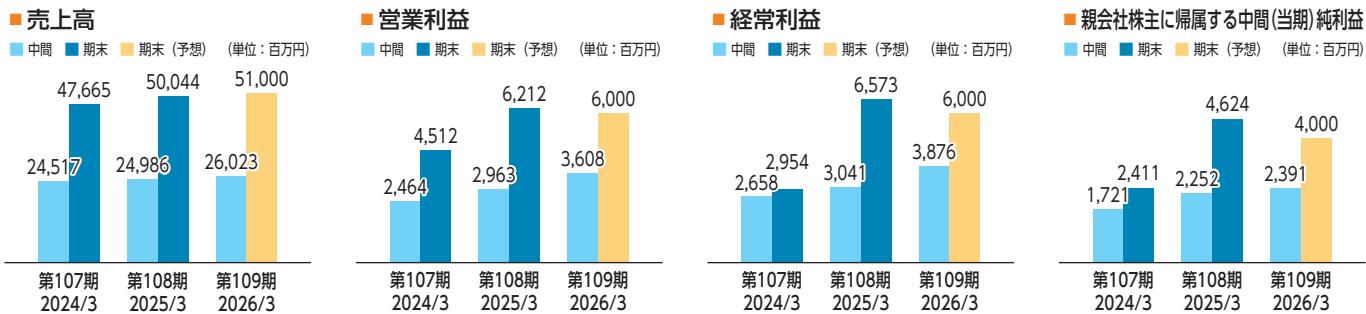
Q

中間配当金についてお聞かせください。

A

当社の中間配当金は、1株当たり20円として12月2日にお支払いさせていただきます。

決算ハイライト

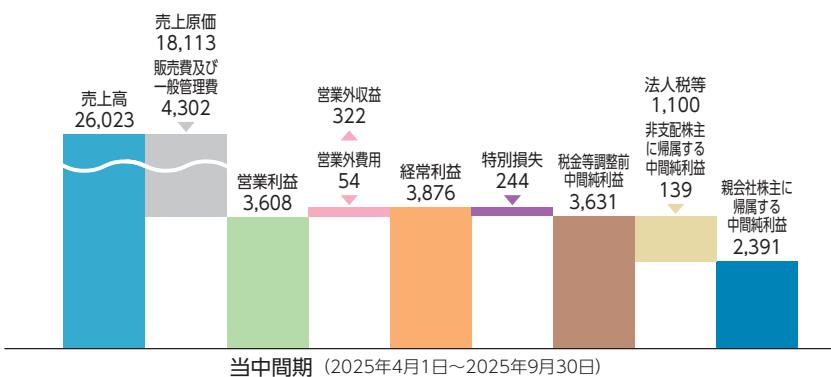


財務ハイライト

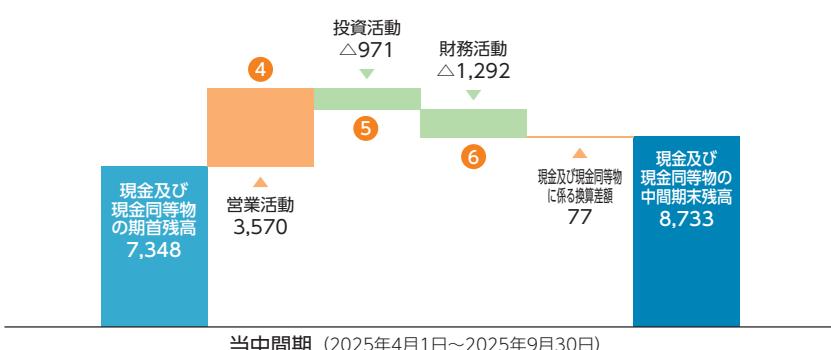
連絡貸借対照表の概要 (単位:百万円)

前期末 (2025年3月31日)	当中間期末 (2025年9月30日)	前期末 (2025年3月31日)	当中間期末 (2025年9月30日)
資産合計 62,019	資産合計 65,088	負債・純資産合計 62,019	負債・純資産合計 65,088
流動資産 32,796	流動資産 35,711	負債 9,902	負債 11,446
固定資産 29,222	固定資産 29,377	純資産 52,116	純資産 53,641

連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



Point

1 資産合計

当中期連結会計期間末の財政状態は、総資産が前連結会計年度末に比較して30億69百万円増加して650億88百万円となりました。主な資産の変動は、現金及び預金の増加16億76百万円、受取手形及び売掛金の増加8億3百万円、電子記録債権の増加1億31百万円等です。

2 負債合計

負債は、前連結会計年度末に比較して15億44百万円増加して114億46百万円となりました。主な負債の変動は、支払手形及び買掛金の増加6億13百万円、未払法人税等の増加8億43百万円等です。

3 純資産合計

純資産は、前連結会計年度末に比較して15億25百万円増加して536億41百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する中間純利益23億91百万円の計上、その他有価証券評価差額金の増加1億93百万円等によるものです。

4 営業活動によるキャッシュ・フロー

当中期連結会計期間における営業活動により35億70百万円（前年同期連結会計期間は39億78百万円の資金の増加）の資金を獲得いたしました。その主な理由は、税金等調整前中間純利益が36億31百万円等による資金の増加、売上債権の増加9億16百万円等による資金の減少によるものであります。

5 投資活動によるキャッシュ・フロー

当中期連結会計期間における投資活動により9億71百万円（前年同期連結会計期間は18億51百万円の資金の減少）の資金を使用いたしました。その主な理由は、有形固定資産の取得による支出6億37百万円等によるものであります。

6 財務活動によるキャッシュ・フロー

当中期連結会計期間における財務活動により12億92百万円（前年同期連結会計期間は8億31百万円の資金の減少）の資金を使用いたしました。その主な理由は、短期借入れによる収入44億円の他、短期借入金の返済による支出44億円、配当金の支払額12億15百万円によるものであります。

セグメントの状況

ニュートリション事業

事業内容

医療、健康食品及び飲料業界等にカテキン（緑茶抽出物）、テアニン（機能性アミノ酸）、水溶性食物繊維等の機能性食品素材、ミネラル製剤、ビタミン製剤等を製造、販売しております。



売上高

82億57百万円

前年同期比

15.7%増



水溶性食物繊維は、アジア市場は減少しましたが、国内及び米国市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

カテキンは、国内、アジア及び米国市場が減少しました結果、売上高は前年を下回りました。ミネラル製剤は、国内、アジア及び欧州市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

テアニンは、国内及び欧州市場は減少しましたが、米国市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。この結果、売上高は、82億57百万円（前年同期比15.7%増）、営業利益は、18億70百万円（前年同期比52.2%増）となりました。

売上高構成比

31.7%

売上高

(単位：百万円)

5,722	第107期 中間期
7,135	第108期 中間期
8,257	第109期（当期） 中間期

営業利益

(単位：百万円)

964	第107期 中間期
1,229	第108期 中間期
1,870	第109期（当期） 中間期

インターフェイスソリューション事業

事業内容

乳製品、飲料、菓子、パン、加工油脂等の業界、及び化粧品、トイレタリー業界等に、乳化剤等の品質改良剤を製造、販売しております。



売上高

71億23百万円

前年同期比

0.4%減



一般食品用途は、国内及びアジア市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

化粧品、トイレタリー用途は、欧州市場は減少しましたが、国内及びアジア市場が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

飲料用途は、国内及びアジア市場が減少しました結果、売上高は前年を下回りました。

この結果、売上高は、71億23百万円（前年同期比0.4%減）、営業利益は、10億96百万円（前年同期比5.7%増）となりました。

売上高構成比

27.4%

売上高

(単位：百万円)

6,453	第107期 中間期
7,155	第108期 中間期
7,123	第109期（当期） 中間期

営業利益

(単位：百万円)

819	第107期 中間期
1,037	第108期 中間期
1,096	第109期（当期） 中間期

ナチュラルイングリディエント事業

事業内容

乳製品、飲料、菓子、パン、総菜、即席めん、農産加工業界等に、鶏卵加工品、たん白素材、即席食品用素材、農産加工品等の食品素材、品質改良剤、安定剤等を製造、販売しております。



売上高

105億56百万円

前年同期比

0.5%減



鶏卵加工品は、めん用途、惣菜向け等の粉末卵・液卵加工品が減少しましたが、調味料用途等向けの液卵・粉末卵が増加しました結果、売上高は前年を上回りました。

即席食品用素材は、国内向け用途が減少しました結果、売上高は前年を下回りました。

安定剤は、惣菜用途、冷菓用途及びデザート用途が減少しました結果、売上高は前年を下回りました。

この結果、売上高は、105億56百万円（前年同期比0.5%減）、営業利益は、6億14百万円（前年同期比8.3%減）となりました。

売上高構成比

40.6%

売上高

(単位：百万円)

12,267	第107期 中間期
10,613	第108期 中間期
10,556	第109期（当期） 中間期

営業利益

(単位：百万円)

655	第107期 中間期
670	第108期 中間期
614	第109期（当期） 中間期

その他事業

料理飲食等の事業を行っております。

売上高は、86百万円（前年同期比5.7%増）、営業利益は、25百万円（前年同期比1.6%減）となりました。

トピックス 1 第3回 健康フォーラム開催 次世代の健康アプローチを考える

食品業界だけでなく、異なる業界も交えた共創のあり方を提案

2025年10月17日、東京国際フォーラム ホールB7にて160社350名の方にご参集いただき、第3回健康フォーラム（主催 太陽化学株式会社、共催 株式会社セブン-イレブン・ジャパン）を開催いたしました。



「For The Future日本発 食と健康のイノベーション」をテーマとし、産学官を交えた各種講演が行われました。

国内外共通の課題である「健康寿命の延伸」に対し、食にとどまらず、ヘルステックといった先端テクノロジーの活用や、産学官の連携による新たな共創、業界を超えた繋がりを持つことが重要であると考えられます。

食品メーカーのみならず、健康産業や化粧品・ヘルステック・流通など多様な業種が参加するなか、食品海外プロモーションセンターからは日本食のグローバル戦略、経済産業省やセブン-イレブンからはPHR（パーソナルヘルスレコード）を活用したサービスの実証実験結果、東京建物・NTTPCコミュニケーションズからは業界を超えた街づくりやテクノロジーの可能性、アカデミアからは京都府立医科大学の内藤先生の講演が行われ、幅広い業界から共創のメッセージを発信しました。

トピックス 2 男性育休を考えるプロジェクトに賛同

太陽化学株式会社は、積水ハウス株式会社が主催する男性育休を考えるプロジェクト「IKUKYU.PJT」に賛同、業種・業態を超えて男性育休取得を推進する174の企業・団体と共に男性社員の育児参加を後押しし、仕事と育児の両立が当たり前になる社会を目指します。

●太陽化学株式会社の育児支援

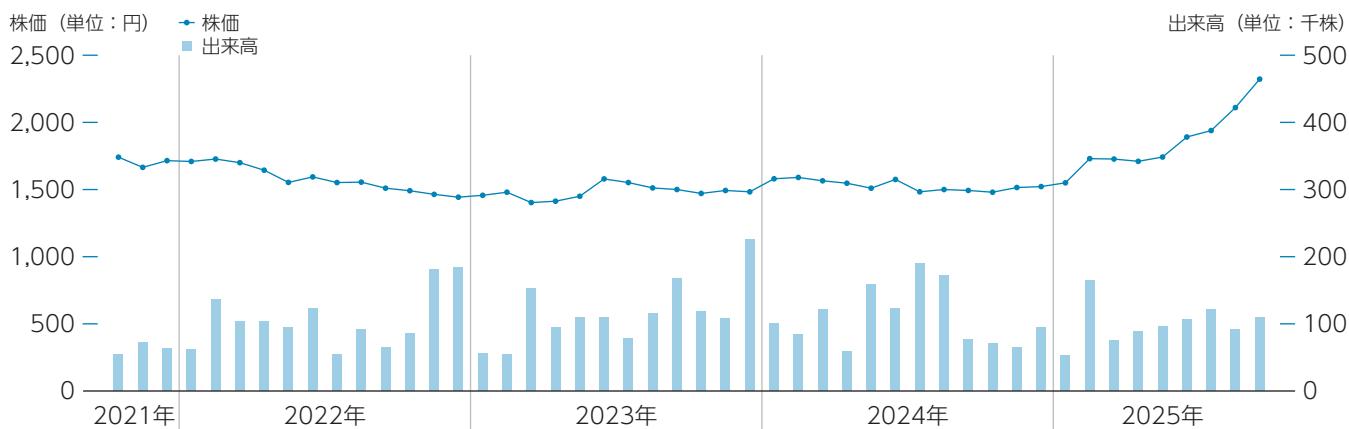
太陽化学株式会社では、「働き方改革の推進」のひとつの育児支援として

- ・育児休業制度
- ・子の看護等休暇
- ・育児短時間勤務制度
- ・育児の為の時差出勤制度
- ・プレママミーティング*

を取り入れており、安心して生活・仕事をできるよう、多様な働き方を推進しています。

*プレママミーティング：出産を控えた女性社員とその上司を対象に上述の育児支援に関する制度等を理解していただき、安心して出産・休業、そして職場復帰・育児をしていただけるようフォローする仕組みです。加えて、女性社員だけではなく男性社員を対象に制度説明・有意義な休暇取得の説明も行っています。現在、育児休業取得率は、女性で100%、男性で80%となっています。

株価・出来高の推移



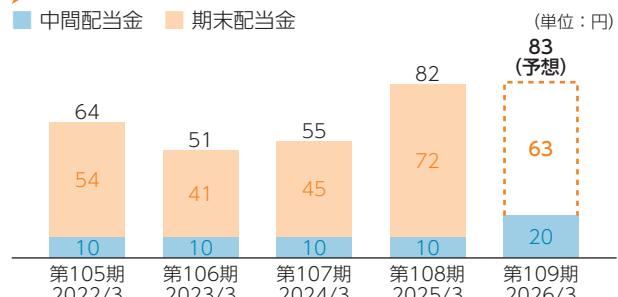
株主還元情報

剩余金の配当等の決定に関する方針

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の最も重要な課題のひとつに位置づけております。

利益配分は、安定的な基準配当年間20円に、実績に応じた利益還元分を加え、連結による配当性向35%を目指して継続的に行うことと、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な将来に備えた内部留保の充実を図ることを基本方針としております。

1株当たり配当金額の5年間の推移



株主様へのご優待

～特別価格販売のご案内～

株主様の日頃のご支援にお応えすべく、当社グループ会社であります株式会社タイヨーラボのヘルスケア商品のご紹介、また、更にお求め易い特別価格に改定し販売させていただきますので、お引き立てを賜りますようよろしくお願ひ申しあげます。



株式会社タイヨーラボ サプリメント商品の一例
<水溶性食物繊維 サンファイバー>

株式会社タイヨーラボの
ホームページよりご購入
いただけます。

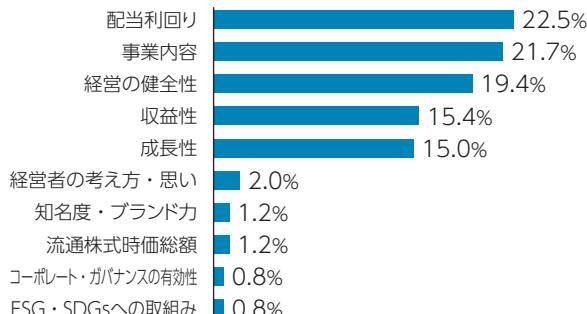
<https://www.taiyo-labo.jp/>



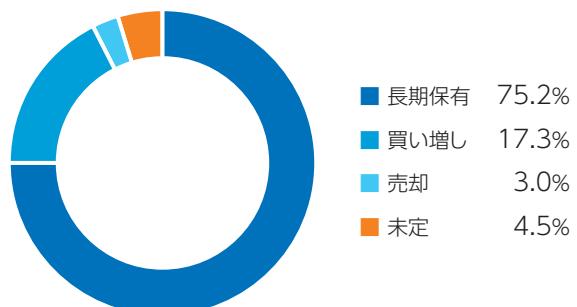
株主アンケートのご報告

アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。株主様から寄せられたご意見を一部ご報告いたします。

Q 当社に投資する決め手となったポイントは何ですか？



Q 当社の株式に対してどのような方針ですか？



会社概要・株式情報・株主メモ (2025年9月30日現在)

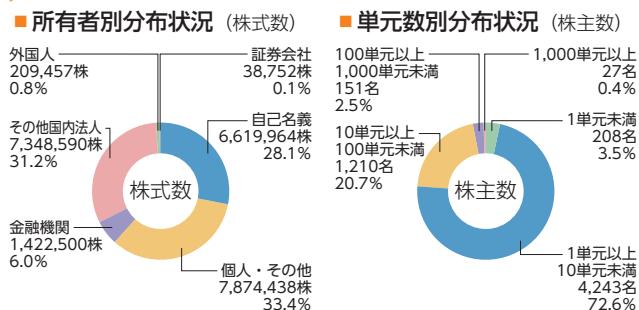
会社概要

会社名 太陽化学株式会社
英訳名 TAIYO KAGAKU CO.,LTD.
設立 1948年1月28日(創立/1946年5月)
資本金 7,730,621,500円
従業員 872名(この他臨時従業員246名)／連結
売上高 500億44百万円／連結
本社所在地 四日市本社
〒512-1111 三重県四日市市山田町800番
東京本社
〒105-0013 東京都港区浜松町一丁目6番3号

株式の状況

発行可能株式総数	90,000,000株
発行済株式総数	23,513,701株
株主数	5,839名

分布状況



株主の皆さまの
声をお聞かせください
コエキク

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、
アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセキー入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
<https://koekiku.jp>
アクセキー 2902kK7y

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する
「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」
✉ koekiku@pronexus.co.jp

製造・販売事業

当社グループの事業は、食品用乳化剤、安定剤、各種鶏卵加工品、即席食品用素材、農産加工品、栄養機能食品、化粧品原料等の製造と販売を主たる目的としております。

大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
長陽物産有限会社	2,283	13.51
向陽興産株式会社	1,016	6.02
太陽化学取引先持株会	983	5.82
有限会社和向	760	4.50
一般財団法人食品分析開発センターSUNATEC	582	3.45
株式会社三十三銀行	437	2.59
株式会社百五銀行	437	2.59
太陽化学従業員持株会	299	1.77
山崎長徳	291	1.73
新菱冷熱工業株式会社	275	1.63

※1 当社は、自己株式6,619,964株を保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。

※2 持株比率は、自己株式を控除して算出し、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

株主メモ

株式の基本情報について、
当社ホームページに掲載しております。
アクセスしてご確認ください。

<https://www.taiyokagaku.com/ir/stock/>



ホームページのご案内

各種の最新情報や、詳しい製品情報は当社のホームページに掲載しております。また、CSRサイトから、CSRレポートもご覧いただけます。ぜひアクセスしてください。

<https://www.taiyokagaku.com/>



 太陽化学株式会社
TAIYO KAGAKU

〒512-1111 三重県四日市市山田町800番
<https://www.taiyokagaku.com/>



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。